

平成29年度 分科会施策の管理シート

分科会名	いきいき世代づくり分科会	会長	金光 俊尚
------	--------------	----	-------

重点項目	がん・生活習慣病の発症予防と重症化予防	数値目標	【達成時期】 平成29年度 【目標値】25%減少させる(予備群:7.6%、該当者:11.4%)	分科会事務局	健康医療課
------	---------------------	------	--	--------	-------

【施策名・概要】 【実行する内容】 いつ、何を、どのように 等	期 初(前年度末まで)		期 中(～9月)		期 末(～2月)…進捗・評価は見込可		次年度へ
	選定した理由	目指す成果	分科会事務局 施策の進捗状況	分科会の意見 見直し、課題、助言等の内容	分科会事務局 実績及び成果に係る自己評価 評価	分科会の評価 達成度・成果について 評価	
1 糖尿病性腎症重症化予防事業 ・5月～6月に国保連と協定を結び、特定健診データ、レセプト等の分析を業者に外部委託(データ分析関係)し対象者を抽出する。 ◎治療中の患者 ・糖尿病性腎症の2期～4期の者のうち、参加同意のあった者に対し、かかりつけ医と連携をとりながら委託業者(保健指導関係)が8月以降、6ヶ月間の保健指導を実施する。 ◎未治療者・治療中断者 ・8月頃～かかりつけ医のいない未治療者・治療中断者への受診勧奨を実施	糖尿病のレセプト件数が県より高く、総医療費の割合も2位と高い。透析者の半数が糖尿病患者となっている。糖尿病の重症化の予防や、透析移行への防止が必要である。	・糖尿病性腎症2期～4期(治療中の患者)の者への保健指導実施人数10人	○当初計画していた糖尿病性腎症2期～4期 対象者172名 ○予算の範囲内で3～4期の68名に絞り、プログラムの事業案内・参加申込書を郵送し、参加を促すための電話勧奨を行った。 ○参加希望者は7名で、目標の10名を下回った。 ○9月5日～8日に第1回面談を行い、6ヶ月間の保健指導を行う。 (保健指導:面談1～2回、電話指導5～7回)	○目標の10名に達していない。再勧奨等を行うなど工夫を。 ○プログラムの案内を送付して申し込み期限まで短いので、十分な期間を確保するなど検討してはどうか。 ○効果が期待できる取組みなので予算枠を増やして、積極的に取り組んでほしい。 10人では少ない。 ○主治医としっかり連携を取ってほしい。	○目標10人→実施7人	○医師会やかかりつけ医と連携を密にし、目標達成に向けた取組みを行うこと。	【進捗管理】 要 【課題】 かかりつけ医と連携を密にし、対象者選定等を行う必要がある。また、終了者へ2年目のフォロー(聞き取り等)を行う。
2 がん検診受診率の目標値設定及びがん予防対策 ・がん検診受診率の目標値設定(6月第1回分科会) (9月)民間女性イベントと連携をし、検診の重要性を啓発 ・(6月・11月)集団検診に30～39歳の女性の乳がん検診を新たに実施 ・(8月)医療機関を拡大 ・(6月)受診勧奨(受診券送付) ・(5月)中学生への喫煙防止対策(世界禁煙デーにあわせて実施)	死因の1位は悪性新生物(がん)であるが、がん検診の受診率が低い。早期発見を促すため、がん検診の受診率の向上、要精密検査の受診率向上に取り組む必要がある。	・がん検診受診率目標達成 胃がん 8.5% 大腸がん 10.0% 肺がん 9.0% 子宮がん 12.0% 乳がん 14.5%	○民間女性イベント「素敵な女性でいたいから」 9月16日(土)10:00～16:00開催予定 乳がん検診34人申込み済 ○女性特有のがん検診実施医療機関の拡大:尾道2、福山・深安23、三次1の医師会、医療機関と契約 9月号広報に掲載予定 ○受診勧奨:がんの受診券については送付済 ○6月の集団検診の受診状況:1,024人(前年:1,031人) ○5月世界禁煙デーに喫煙と健康について中学生、保護者向けにチラシ配布 ○高校で喫煙防止講演予定(11月、2月、2校)	○喫煙対策について中学生に啓発することは重要であるが、市内では屋外・店内などタバコを吸えるところが多い。地域によっては喫煙対策を条例で定めて、市を上げて取り組んでいる。対策については市整体的に取り組む必要がある。 ○がん・生活習慣病の発症予防と重症化予防の達成率を日本全国・県・市がわかるような資料を作成し比較検討すること。 ○がん啓発イベント実施に係り、府中地区歯科医師会も協力を。	○がん検診受診率 2月の集団検診申込者を含む個別検診は12月までの実績 府中市、( )内は目標 胃がん(8.5%)→10.8% 大腸がん(10.0%)→8.9% 肺がん(9.0%)→7.6% 子宮がん(12.0%)→10.6% 乳がん(14.5%)→11.5%	○平成30年度「新規の胃の内視鏡検査の導入等、引き続き目標達成のため啓発を行い受診率向上を目指すこと。	【進捗管理】 要 【課題】 ・大腸がん受診率向上に向けて:勧奨ハガキにより受診を促す。 ・継続して乳がんイベントに検診車を配置する。 ・全ての郵便受けへ健康診査のお知らせの冊子を配布す
3 中学生と保護者健診事業 集団健診の中で、上下で1回(6月)・リ・フレで1回(11月)実施 ・PTA総会等で健診事業をPRし、受診勧奨する ・健診結果に応じて、受診の確認・勧奨・指導を行う 6月24日(土)上下町民会館、11月12日(日)リ・フレ ※周知方法 (4月)「健診のおしらせ」の全戸配布・広報誌 (4月・9月)教育委員会を通じて、校長会や養護教諭部会に働きかける (4月)保護者会への働きかけ (4月・9月)子どもへの直接の呼びかけ 昨年の反省から…中学生の健康診査の受診結果をわかりやすく保護者へ説明する。	特定健診の受診率が低い。生活習慣病予防のためには子どもの時から自己の健康管理・増進に取り組む多世代にわたる健診体制の確立が必要である。	受診者 生徒80名、保護者20名 合計100名	○6月24日(土)に実施。参加申し込みが生徒39名、保護者0名に対し、受診者:36名 ○受診者には、健診結果を素に作成した資料をつけて結果を返信した。 11月実施分については、現在申し込みを受け付けている。 (H28年受診者中学生:53名、保護者:11名)	○目標 生徒80人→実施 72人 保護者20人→実施 2人 合計:74名(H28年度…64名) ○6月と11月に2日間実施(昨年度3日間実施)	特に意見なし	【進捗管理】 要 【課題】 ・開催日を増やす。 ・保護者の受診は取りやめその分生徒を増やす。 ・府中市外の学校に通う対象者への周知方法の検討	
4 運動の習慣づくり ○てくてくウォーキングチャレンジ事業の実施 (1期:5～7月、2期9～11月で取組) ・90日間6000歩、9000歩、グループで決めた歩数の3コースを設定し、職場のグループでウォーキングを実施 (昨年3件 → 4月末申込数33件) ○ウォーキングマスターの育成(現在51人) ・6～9月に4回の講座を実施する ・ウォーキングマップの活用 ■ウォーキングマスターの育成 第1回6月9日(金)「ウォーキングの基本と目的」 第2回7月14日(金)「伝えよう!健康ウォーキング」 第3回8月31日(木)「靴は万病のもと!～靴と健康について～シューズラボCUE」 第4回9月15日(金)「体力測定、グループワーク」 ○府中焼きマンボ体操普及推進(4～2月) ・未実施の保育所に指導員派遣を行う ・小学校低学年で実施の推進	運動している人の継続率は上昇しているが、日常生活の中で運動をしている人の割合は、減少している。男性のメタボ該当者・予備群が女性の3倍と高い。	○てくてくウォーキングチャレンジ事業 ・登録グループ数 100組 ・目標歩数の達成グループの増加80%以上 ○ウォーキングマスターの育成 登録者70名・・・(現在51人) ○府中焼きマンボ体操普及推進 保育所10か所定期的に実施 小学校4校以上で行事等で体操実施	○てくてくウォーキング 第1回 登録グループ:33組、18事業場、119名参加 第2回登録グループ: 54組、19事業場、177名参加 ○ウォーキングマスターの育成 新規登録者20名(ウォーキングマスター育成講座 6月9日・7月14日・8月31日・9月15日) ○ウォーキングマップを配布(1,000部配布終了) ○ウォーキング講演会 ・8月29日新市支所にて府中市のウォーキング事例発表 ○8月31日リ・フレにて「靴は万病のもと」講演 67名参加 ○府中焼きマンボ体操普及推進 校長会で行事でのマンボ体操実施を依頼	○てくてくウォーキングチャレンジ 目標100組→実施87組 第1回 登録グループ:33組、17事業場、119名参加 第2回登録グループ: 54組、23事業場、188名参加 ○ウォーキングマスターの育成 目標70名(登録済含む)→実施71名 新規登録者20名(ウォーキングマスター育成講座 6月9日・7月14日・8月31日・9月15日) ○広報1月号にてマンボ体操紹介	特に意見なし	【進捗管理】 要 【課題】 ・周知方法の工夫 ・イベントの紹介 ・取り組む企業を広報で紹介 ・記録用紙の工夫 ・市民が簡単に楽しく参加できるように内容を検討する。	

(注意事項)

- ① 重点項目ごとに、必ず管理シート1枚以内にまとめること(進捗管理する施策の選択等)。施策の選択の際は、重点項目の目標達成にどの程度貢献するのかも考慮すること。
- ② 目指す成果の項目には、量的把握が可能なものは全て計量化・数値化することとし、不可能なものについても、望ましい状態や 結果、目標が達成された場合の状態等を具体的に明示すること。
- ③ 達成度・成果の評価においては、施策の実行に当たってのプロセスも考慮し、総合的な視点から判断を行うこと。評価の基準については、別紙の「施策の実績・盛夏に係る評価の基準」を参考にすること。
- ④ 各施策の詳細(具体的な取組等)について、別に資料を添付しても良いこと。

特記事項

●事務局の評価が△が多い。適切な目標設定をしているのか。また、全体的に評価が厳しいのでは。評価基準を明確に。